

科目名	看護への招待	配当時期	1 年次 前期	担当者	本校専任教員
		単位数	1 単位		
		時間数	30 時間 (15 回)		
事前学習内容: 1. ナイチンゲールの伝記を 1 冊読む (漫画でも可) 2. 看護師を目指した理由を800字以内にまとめる 3. 授業内容ごとの事前学習課題は、別に提示します					
科目全体のねらい・授業目標 看護の歴史的変遷を捉え、看護理念や定義、看護の対象である人間、看護の役割と機能、看護の基本的倫理、看護実践の原理を学び、看護とは何か、また看護を実践するとは何かを考える					
DPとの関連 DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力 1) 生命、生活、願いに関心を寄せ、倫理観に基づいた判断と行動ができる					
回	学習内容と成果				方法
1	本科目での学習内容・学習方法について理解する 1) 授業ガイダンス 2) 協同学習について 自己紹介 (事前学習課題2の活用)				講義 演習 提出: 事前学習課題2
2	看護の仕事について考える 1) DVD 視聴 「迷わず走れ、そして飛び込め」～専門看護師 北村愛子の仕事～ DVD 視聴を通して看護の仕事についての新たな発見や目指したい看護師像を言語化する				講義・DVD 視聴 課題レポートあり
3	看護の歴史的変遷と発展わかる①～近代看護に至るまで～ 1) 看護の時代的変遷と発展 フローレンス・ナイチンゲールについて (事前学習課題1を活用) 2) 看護の定義 3) 看護概念の発展と変遷				講義 演習 提出: ナイチンゲールの生涯
4	看護の歴史的変遷と発展がわかる②～日本の看護の歴史～ 1) 日本の看護の変遷と戦後における我が国の看護の変遷				講義 演習
5	看護の対象が理解できる① 1) 人間とは、人間の基本的欲求 2) 人間とライフサイクル				講義 演習
6	看護の対象が理解できる② 1) 国民の全体像: 衛生統計・人口構造の変化 2) 看護の対象としての家族とその機能				講義 演習
7	看護の役割と機能がわかる① 1) 看護実践における看護者の役割 2) 看護と医療安全				講義 演習
8	看護の役割と機能がわかる② 1) 健康障害と看護 2) 看護実践と看護過程の展開				講義 演習 課題レポートあり
9	看護と健康について理解できる① 1) 健康のとらえかた 2) 障害のとらえかた				講義
10	看護と健康について理解できる② 1) 国民全体の健康の指標 2) 地域における看護について				講義
11	看護における倫理についてわかる 1) 現代社会と倫理 2) 職業倫理としての看護倫理				講義
12	看護理論とは何か概観を理解できる 1) 看護理論の分類 2) 看護理論の変遷 3) 看護理論を読む枠組み				講義・演習 文献の読み取り
13	看護理論の読み取りができ 2) ナイチンゲールの看護覚え書を通して、看護師の役割を考える				
14	看護職者と保健医療サービスの関係について理解できる 1) 看護職者のキャリア開発 2) サービスとしての看護				講義
15	看護への招待、学習の振り返りができる 筆記試験				講義 終講試験
評価方法 出席状況、課題提出、筆記試験による総合評価					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護職の基本的責務 日本看護協会出版 参考テキスト やさしく学ぶ看護理論 日総研					

科目名	おとなの暮らしと健康	配当時期	1年次 後期	担当者
		単位数	1単位	本校専任教員
		時間数	20 時間 (10 回)	
事前学習内容				
講義 発達心理学で学習した成人期のライフサイクルと発達の復習、				
講義 看護学概論で学習した看護の対象、健康と看護を復習				
科目全体のねらい・授業目標				
1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる				
2. 現代社会において成人を取り巻く社会環境とその生活について理解できる				
3. 成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策について理解できる				
4. 成人期にある人を看護するうえで有用な理論や概念を理解できる				
DPとの関連				
DP1. 生命や個人の価値観を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践する力				
2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から理解できる				
回	学習内容と成果			方法
1	成人期にある人の特徴を概観しライフサイクルの中の成人期の位置づけが理解できる			講義
2	成人期にある人の身体的・社会的・精神的特徴と現代社会について理解できる			講義
3	成人期にある人をとりまく現状が及ぼす影響について理解できる 家族をめぐる状況・労働をめぐる状況			講義/演習
4	成人期にある人をとりまく現状が及ぼす影響について理解できる 環境・日常生活スタイルが及ぼす影響			講義/演習
5	成人期にある人の健康の動向を理解できる 人口構造の変化とその影響 疾病構造の変化			講義
6	成人期にある人の生活と健康をまもりはぐくむシステム			講義
7	生活習慣病に関する健康課題と対策について理解できる			講義
8	「病みの軌跡」を知り、病気を持った「おとな」の理解と看護に有効であることを知る			講義
9	成人期にある人の健康を促進する援助に有用な理論について理解できる 危機理論 成人学習理論 健康信念モデル エンパワメントアプローチ 自己効力感			講義
10	学習のまとめ			筆記試験
備考				
受講上の注意				
評価方法 (出席状況 提出物) 筆記試験 90%による総合評価				
使用テキスト				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院				
厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会				
参考文献				

科目名	看護技術の基本	配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者 本校専任教員
事前学習内容 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する			
科目全体のねらい・授業目標 看護を実践するために共通して必要な基本的知識・技術・態度を習得する。(対象の安全・安楽・自立の視点、観察・記録・報告、対象に合わせたコミュニケーションの方法と媒体の工夫)			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し 解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	看護技術とは何かを考えることができる 1) 技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範疇 4) 看護技術の適切な実践(安全・安楽・自立と倫理的配慮)		講義
2	看護におけるコミュニケーション技術の基本と実践が理解できる 1) コミュニケーションの意義と目的 2) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 話し方、聞き方の技術 3) 情報収集・説明の技術 4) アサーティブ行動		講義
3	コミュニケーション障害がある人への対応がわかる 1) オープンドクエスチョンとクローズドクエスチョン 2) 手話言語		講義 演習
4	看護における観察・記録・報告の技術の基本が理解できる 1) 観察・記録・報告 看護における情報の取り扱いについて考えることができる 1) 情報における看護師の責務・倫理的配慮		講義
5	看護における情報伝達と共有 1) 看護チームカンファレンス		講義・演習
6	看護における学習支援の対象者と看護の役割がわかる 1) 学習の基礎知識 2) 学習支援の対象者とニーズ 3) 看護の役割		講義
7	学習支援の技術として、支援の進め方や指導方法、教材がわかる		講義
8	事例を通して、学習支援の実践について学ぶ 1) 効果的な学習支援の方法の探求		講義/演習
9	事例を通して、学習支援の実践について学ぶ 1) 健康教育の実践とリフレクション		演習
10	感染予防の基礎が理解できる 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件および感染予防 3) 院内感染の防止		講義
11	感染予防の基礎が理解できる 1) 標準予防対策(スタンダードプリコーション) 2) 感染経路別予防策		講義
12	医療器具の管理および感染性廃棄物の取り扱いが理解できる 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 3) 感染性廃棄物の取り扱い		講義
13	感染予防の基本的技術を実践できる		技術演習 【感染予防】
14	1) 手指衛生 2) PPE 3) 個人防護用具の装着(ガウンテクニック、滅菌手袋の装着) 3) 無菌操作		
15	学習のまとめと評価		講義・筆記試験
備考 第3回の講義はゲストティーチャーによる講義			
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること			
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考文献 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア			

科目名 フィジカルアセスメント		配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間 (15 回)	担当者 本校専任教員
事前学習内容 各回の学習内容に関連する人体の構造と機能の学習内容を復習する 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する			
科目全体のねらい・授業目標 看護の対象の身体的状況を、解剖生理の知識を活かし、五感を使って把握するための基礎的な知識・技術・態度を習得する			
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる			
回	学習内容と成果		方法
1	ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる 1)ヘルスアセスメントとは 2)ヘルスアセスメントにおける観察と視点 3)フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 4)健康歴とセルフケア能力のアセスメント		講義
2	健康歴とセルフケア能力のアセスメントができる 1)健康歴の情報収集 2)セルフケア能力のアセスメント 3)情報の整理		講義
3	フィジカルアセスメントに必要な技術が理解できる 1)フィジカルアセスメントに必要な技術 2)全身状態・全体印象の把握(身長・体重・体型)		講義 演習
4	バイタルサインの観察とアセスメントができる(体温) 1)バイタルサインとは 2)体温の理解とアセスメント 3)体温測定の方法		講義 演習
5	バイタルサインの観察とアセスメントができる(血圧) 1)血圧の理解とアセスメント 2)血圧測定の方法		講義 演習
6	バイタルサインの観察とアセスメントができる(脈拍・呼吸) 1)脈拍・呼吸の理解とアセスメント 2)脈拍測定の方法 3)呼吸の観察方法		講義 演習
7.8	バイタルサイン測定の方法を実践できる 1)体温測定の方法 2)脈拍測定の方法 3)血圧測定の方法 4)呼吸の観察		技術演習 【バイタルサイン測定】
9	外皮系と四肢のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる		講義 演習
10	頭・頸部、感覚器系、神経・意識のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる		講義 演習
11	胸部(心臓・血管系と呼吸器系)のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる		講義 演習
12	腹部のフィジカルイグザムとアセスメントが理解できる		講義 演習
13.14	フィジカルイグザミネーションの方法を実践できる 1)フィジカルイグザミネーションの実際 (呼吸音聴診の方法、腹部の聴診・触診を中心に)		技術演習 【フィジカル イグザミネーション】
15	フィジカルアセスメントの学習内容の振り返り 技術試験と筆記試験		講義 筆記試験
備考 技術習得のため、タスクトレーニングを実施。タスクトレーニング終了後、技術試験を実施			
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること			
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア			

科目名 生活をささえる看護技術Ⅰ (環境・食事)	配当時期 1 年次 前期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者 本校専任教員
事前学習内容 人体の構造と機能(摂食に関する機能)の復習 「看護覚え書き」第 1. 2. 8. 9 章を読む 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する		
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活を円滑に営めるよう、身の回りを整える。また、食事摂取、栄養代謝に関する健康障害を持つ対象の看護を実践するための知識・技術・態度を習得する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	看護における環境を理解する 1) 環境とは 2) 人と環境(物理的環境、人的環境とは) 3) 生活環境とは	講義
2	療養生活環境が理解できる 1) 療養環境とは 2) 生活環境の調整 病室の環境のアセスメントと調整方法が理解できる 1) 病室の選択 2) 温度・湿度・光と音・色彩・匂い・人的環境	講義
3	病床を整える援助の実践が理解できる 1) ベッド周囲の環境整備 2) 安全を考えた病床整備の実践 3) 療養環境の援助に関わる倫理的配慮	講義 演習
4	環境整備の技術が実践できる	技術演習 【環境整備】
5.6	ベッドメイキングの技術が実践できる	技術演習 【ベッドメイキング】
7.8	リネン交換の技術が実践できる	技術演習 【リネン交換】
9	看護における食事援助の基礎知識が理解できる 1) 人にとっての食事の意義 2) 栄養状態のアセスメント(栄養・水分・食欲) 3) 食事援助に関わる倫理的配慮	講義
10	食事援助に必要な摂食嚥下の基礎知識が理解できる 1) 摂食・嚥下機能の基礎知識 2) 摂食行動のアセスメント 3) 摂食に必要な口腔内環境 4) 医療機関で提供される食事の種類と形態 5) 非経口的栄養摂取の援助	講義
11	看護における食事摂取の援助(食事介助・口腔ケア)ができる	技術演習 【食事介助・口腔ケア】
12	食欲不振・低栄養など栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への看護が理解できる	講義 演習
13.14	食欲不振・低栄養など栄養・代謝に関連する症状を示すに関連する症状を示す対象者への看護が実践できる	シミュレーション
15	生活をささえる看護技術Ⅰの学習内容の振り返りができる 筆記試験	講義 筆記試験
備考 技術習得のため、【ベッドメイキング】のタスクトレーニングを実施。タスクトレーニング終了後に技術試験を実施する		
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること		
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研		

科目名 生活をささえる看護技術Ⅱ (活動・休息)	配当時期 1年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	担当者 本校専任教員
事前学習内容 人体の構造と機能(面・筋・関節・脳神経・感覚器) キャリア支援Ⅰ(重力・重心線・摩擦・てこの原理・力のモーメント)の復習 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する		
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活を円滑に営めるように活動・休息をとるための知識・技術・態度を習得する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を判断し 解決するための方法が理解できる		
回	学習内容と成果	方法
1	人が活動するための構造と機能、意義が理解できる 1) 基本的活動の基礎知識 2) 姿勢の基礎知識 3) 良肢位・関節可動域	講義
2	看護における活動援助の意義が理解できる 1) 姿勢の生理学的影響 2) 廃用症候群 3) ボディメカニクスの原理 4) 関節可動域訓練	講義 演習
3	様々な体位とその目的が理解できる 1) 基本体位と特殊体位 2) 体位変換 3) 安楽な体位・ポジショニング	講義 演習
4	体位変換の援助を実践できる	技術演習【体位変換】
5	安全・安楽・自立を考えた活動援助が理解できる 1) 日常生活活動のアセスメント 2) 様々な方法での移動の援助 3) 活動援助を実施する際の倫理的配慮	講義
6.7	安全・安楽・自立を考えた移動援助を実践できる	技術演習【移動・移乗】
8	睡眠と休息の意義が理解できる 1) 1人にとっての睡眠の意義 2) 睡眠の種類 3) 睡眠のメカニズム 4) 睡眠障害のアセスメント	講義
9	睡眠・休息の基礎知識と援助方法が理解できる 1) 援助の基礎知識 ①睡眠の種類とメカニズム ②睡眠障害のアセスメント 2) 睡眠休息の援助 ①体内時計のリズム調整 ②睡眠習慣 ③睡眠を妨げる因子 ④入眠を促す援助	講義 演習
10	睡眠・休息・安楽確保の技術が理解できる 1) 電法の援助と基礎知識 2) 身体ケアを通じてもたらされる安楽の援助と基礎知識	講義 演習
11	看護における苦痛の緩和・安楽確保の援助技術を実践できる	技術演習【電法】
12	活動・休息・痛み(認知・知覚)に関連する症状を示す対象者への看護を考えることができる	講義 演習
13.14	活動・休息・痛み(認知・知覚)に関連する症状を示す対象者への看護を実践できる	シミュレーション
15	生活をささえる看護技術Ⅱの学習内容の振り返りができる 筆記試験	講義 終講試験
備考		
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること		
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 「リハビリテーション看護」医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会		

科目名 生活をささえる看護技術Ⅲ (清潔)	配当時期 1 年次 前後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間(15 回)	担当者 本校専任教員
事前学習内容 人体の構造と機能(骨格・関節)と形態機能学(皮膚)の復習 身の回りの繊維と被服の成り立ちについての観察と記録 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する		
科目全体のねらい・授業目標 対象が日常生活において、身体の清潔を保つ意義・目的を理解する。その上で、対象の状況に合わせた清潔の援助の種類・方法の選択、援助の際の観察を行うための知識・技術・態度を習得する		
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる		
回	学習内容と成果	方法
1	身体を清潔に保つ意義・日常生活における清潔の援助の基本的知識・技術・態度が理解できる。 1) 人にとっての清潔の意義 2) 日常生活における清潔 3) 清潔援助における倫理的配慮 4) 清拭援助における観察と留意点	講義
2	衣生活の基礎知識と療養生活での衣生活の援助について理解できる 1) 被服をきることの意義 2) 熱生産・熱放散・被服機構 3) 被服の成り立ちと素材の種類・特徴 4) 被服・病衣の選択	講義
3.4	安全・安楽を考えた寝衣交換の援助が実践できる	技術演習【寝衣交換】
5	療養生活での清潔の援助の実際がわかる(入浴・シャワー浴・全身清拭) 1) 対象者の状態に応じた援助の決定と留意点 2) 入浴・シャワー浴の基礎知識 3) 全身清拭の基礎知識	講義
6.	安全安楽な清潔援助を実施するための準備・方法がわかる。 安全安楽な方法で、部分清拭ができる	技術演習【部分清拭】
7.8	安全・安楽を考えた全身清拭の援助が実践できる	技術演習【全身清拭】
9	療養生活での清潔の援助の実際がわかる(部分浴・陰部洗浄) 1) 部分浴の援助の基礎知識と留意点 2) 陰部洗浄の基礎知識と留意点	講義
10.11	安全・安楽を考えた部分浴・陰部洗浄の援助が実践できる	技術演習 【部分浴・陰部洗浄】
12	療養生活での清潔の援助の実際がわかる(洗髪) 1) 洗髪の援助の基礎知識 2) 対象の生活の場に応じた洗髪の援助 3) 整容の援助の基礎知識	講義
13.14	安全・安楽を考えた洗髪・整容の援助を実践できる	技術演習【洗髪・整容】
15	生活をささえる看護Ⅲの学習の振り返りができる 筆記試験	講義 終講試験
備考 技術習得のため、タスクレーニングを実施する		
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること 事前課題の内容については、レポート提出および授業内で確認テストを行う		
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研		

科目名	生活をささえる看護技術Ⅳ (排泄)	配当時期	1 年次 後期	担当者	本校専任教員
		単位数	1 単位		
		時間数	30 時間 (15 回)		
事前学習内容 人体の構造と機能(腎・泌尿器・消化器)の復習 感染予防で習得したスタンダードプリコーション、無菌操作の技術の復習 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する					
科目全体のねらい・授業目標 対象が排泄を適切に行うための知識・技術・態度を習得するため。また、排泄に症状を示す対象者に適切な援助を提供する					
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1)対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる					
回	学習内容と成果				方法
1	排泄の援助の意義とメカニズムが理解できる 1)人にとっての排泄の意義 2)排泄器官の機能と排泄のメカニズム				講義
2	排泄のアセスメントができる 1)排尿、排便のアセスメント 2)排泄動作のアセスメント				講義
3	自然排尿・自然排便の援助の方法がわかる① 1)トイレ・ポータブルトイレ・床上での排泄 2)排泄援助時の倫理的配慮				講義 演習
4	自然排尿・自然排便の援助の方法がわかる② 1)排泄援助に必要な排泄用具 2)オムツ				講義 演習
5.6	自然排尿・自然排便の援助が実践できる				技術演習【オムツ交換・排泄用具】
7	排便困難のある患者への援助方法が理解できる 1)浣腸 2)摘便				講義
8	排尿困難のある患者への援助方法が理解できる 1)一時的導尿 2)持続的導尿				講義
9.10	浣腸・摘便の援助が実践できる				技術演習【浣腸・摘便】
11.12	一時的導尿・持続的導尿の援助が実践できる				技術演習【導尿】
13.14	排泄に関連する症状を示す対象者への看護が実践できる				シミュレーション
15	生活をささえる看護Ⅳの学習の振り返りができる 筆記試験				講義 終講試験
備考					
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること					
評価方法 出席状況、提出物、筆記試験による総合評価					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 参考文献 看護覚え書き 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研					

科目名	経過別看護	配当時期	1 年次 後期	担当者	本校専任教員
		単位数	1 単位		
		時間数	30 時間(15 回)		
事前学習内容 各技術演習前には、手順を確認し、根拠とともに技術演習記録に記載する 各技術演習前には、テキスト等の動画を視聴する					
科目全体のねらい・授業目標 健康障害にある患者を経過別に理解し、健康状態に応じた看護を考えるための基本的な知識・技術を理解する					
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 1) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる					
回	学習内容と成果				方法
1	経過別看護の概要が理解できる 1) 急性期、慢性期、回復期、終末期とは 2) 対象を 3 側面で捉える				講義
2	健康障害を持つ人の基本的な考え方が理解できる 急性期における看護を考えることができる 1) 事例紹介 2) 事例患者の援助の必要性を考える				講義
3	事例患者に必要な援助計画を考えることができる				講義 演習
4・5	事例患者に必要な援助(CPR・吸引・吸入・酸素療法)を実践できる				技術演習 【心肺蘇生(CPR) 吸引・吸入・酸素療法・】
6	慢性期における看護を考えることができる 1) 慢性期とは 慢性期の疾患・治療の特徴 慢性期患者の特徴とニーズ 2) 慢性期の経過を捉える情報収集の視点 3) 事例紹介				講義
7	事例患者の情報を整理して、対象を理解する 1) 三側面の視点で情報を整理する				講義 演習
8	事例患者にとって援助の必要性を考える 1) 事例患者に必要な援助を立案できる				演習
9	回復期における看護を考えることができる 1) 回復期とは 回復期の疾患・治療の特徴 回復期患者の特徴とニーズ 2) 回復期の経過を捉える情報収集の視点 3) 事例紹介 事例患者の情報を整理して、対象を理解する 1) 三側面の視点で情報を整理する				講義
10	事例患者に必要な援助計画を考えることができる				講義 演習
11・ 12	事例患者に必要な援助計画を考えることができる 事例患者に必要な援助を実践できる				シミュレーション
13	終末期における看護を考えることができる 1) 死に近づく人について 終末期の特徴 2) 終末期医療の特徴 終末期医療の倫理的課題 3) 終末期患者・家族の全人的苦痛 ACP				講義
14	事例患者に必要な援助計画を考えることができる 1) 終末期患者の看護 2) 終末期患者のニーズ: 身体的ニーズ・心理的ニーズ・社会的ニーズ・スピリチュアルなニーズ 3) 終末期患者の看護援助: 緩和ケア・痛みのケア・真実の告知・家族への援助・グリーフケア 4) エンゼルケアについてその方法と留意点に分かる				講義・演習
15	終末期にある対象を理解し必要な看護を考える 健康障害のある患者の経過別に応じた看護の振り返りができる 学習のまとめ 筆記試験				講義 終講試験
備考					
受講上の注意 技術演習の際には、身だしなみを整えること					
評価方法 出席状況、筆記試験、レポートによる総合評価					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 参考文献 看護過程に沿った対症看護 学研					

科目名	看護を考える道のり	配当時期	2 年次 前期	担当者 本校専任教員
		単位数	1 単位	
		時間数	30 時間 (15 回)	
事前学習内容 ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読み、事前課題レポートを提出				
科目全体のねらい・授業目標 紙上事例において、対象の経過と個別性に応じた看護活動を科学的・系統的に展開するために、問題解決過程を踏んで看護過程を理解する				
DPとの関連 DP2. 科学的に思考し、あらゆる対象に適切に看護を実践する力 2) 対象の健康状態を系統的に観察し、批判的思考に基づいて対象に生じている看護課題を解決するために行動できる				
回	学習内容と成果			方法
1	看護過程の意義と基礎的理論が理解できる 1) 援助の必要性について考える			講義
2	看護過程の 5 つの構成要素が理解できる① 情報収集のための視点とその内容 代表的なアセスメントの枠組み 1) ヘンダーソンの 14 の基本的欲求 2) ゴードンの 11 の機能的パターン			講義
3	看護過程の 5 つの構成要素が理解できる② 情報収集のための視点とその内容			講義
4	看護過程の 5 つの構成要素が理解できる③ (アセスメント・看護上の問題の抽出)			講義
5	看護過程の 5 つの構成要素が理解できる④ (計画の立案・実施・評価)			講義
6	事例の情報整理ができる			講義・演習
7	事例の病態関連図が書ける			講義・演習
8	事例の看護過程が理解できる(アセスメント・看護上の問題の抽出)			講義・演習
9	事例の看護過程が理解できる(アセスメント・看護上の問題の抽出)			演習
10	事例の看護過程が理解できる(関連図と計画の立案)			講義・演習
11	事例の看護過程が理解できる(関連図と計画の立案)			演習
12	実施・評価の考え方が理解できる			講義
13	事例の看護計画を立案できる			演習
14	事例の看護計画の発表ができる			発表
15	看護を考えるみちのりの学習内容の振り返りができる 筆記試験			講義 終講試験
備考				
受講上の注意 グループでの演習が多くなりますが、個々が理解して(理解しようとして)取り組むこと				
評価方法 出席状況、筆記試験、レポートによる総合評価				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 NANDA-Ⅰ 看護診断一定義と分類 医学書院 参考文献 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 看護過程に沿った対症看護 学研				